

キャラクター名  
キク・ホンダ

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ	ワークス	情報屋	カヴァー	歌手
	エンジェルハイロウ				
オプション		年齢	32	性別	男
覚醒	忘却	衝動	解放	初期侵食率	35%
出自	天涯孤独	経験	記憶喪失	邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	0	1			1	行動値	18
感覚	6	0	2			8	(非装備時)	18
精神	2	0	0			2	戦闘移動	23
社会	0	1	0			1	全力移動	46

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		RC	1		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転			芸術：歌唱			知識			情報：裏社会	4	
運転			芸術			知識			情報：警察	1	
運転			芸術			知識			情報		
運転			芸術			知識			情報		
運転			芸術			知識			情報		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
						S=セットアップ、M=メジャー・マイナー
ヘルスナイパー	射撃	8r+4		14		エンジェルハイロウ専用武器 同-エンゲージ内攻撃不可
狩人の鉄鎚	射撃	15r+4		30		侵蝕値8 HS+①+②+③+⑥
崩壊の足音	射撃	19r+4		30		侵蝕値13 シナリオ1回、HS+①+②+③+④+⑥

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
防弾防刃ジャケット	10	3			

合計装甲： 3 合計回避： 0

所持品	
ヘルスナイパー	
喫煙道具一式	
コネ：警察官	
コネ：情報屋	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
アーサー・カーランド	P 純愛	N 不安		
ギルベルト・パイルシュミット	P 庇護	N 憐憫		
アルフレッド・F・ジョーンズ	P 同情	N 侮蔑		
	P	N		
イヴァン・ブラギンスキ	P 好奇心	N 嫌気		
ロヴィーノ・ヴァルガス	P 好意	N 憐憫		
光使い	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-LV(下限値7) <シンドローム>							
小さな塵	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	攻撃力+[LV×2] <射撃>							
主の右腕	3	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果:	攻撃力+[LV×2] <シンドローム>							
光の裁き	2	5	メジャー	-	単体	対決	ピュア	
効果:	シナリオ1回。ダイス+[LV×2]、ドッジ選択不可 <シンドローム>							
光の守護	1	4d10	オート	至近	自身	自動	120↑	
効果:	シナリオ1回。ダメージを0にする							
光の指先	5	2	メジャー/リアクション	-	-	-	Dロイス	
効果:	ダイス+[LV+2]							
幻影の騎士団	4	2	セット	至近	自身	自動	-	
効果:	攻撃力+[LV×3]。ダメージを受けると効果終了							
天使の外套	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	自らの姿を別の外見に書き替える							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

エンジェルハイロウ ピュアブリード  
 20歳までの記憶を無くした記憶喪失の青年。思い出しうる最初の記憶が悪事を働くところだった。現在は記憶喪失であることなど気に掛ける様子もなく、表向きには顔出しNGの謎の歌手「SAKURA」として生活しながら情報を売買する情報屋として生きている。記憶喪失の影響なのか、自分が覚醒した時期や家族の有無、本来の名前なども一切わからない。実はかなりの潔癖症でヒューマンエリアが極端に広く、自分が認めた相手以外との接触は苦手。時折襲い掛かる自分を捨て去ってしまいたい衝動を感じた際は、近くに人を寄せ付けないようにしている。  
 喫茶店のマスターであるアーサーとはビジネス上の付き合いだと言っているが、雰囲気落ち着くのか他者よりも踏み込んだ付き合いをしている様子。また、最近力を暴走させた少年・ギルベルトを保護。そのまま自分の弟子として自宅へと招いた。  
 身の丈より大きなコートを羽織り、処世術としてか常に微笑みを携えている。その心の内を他人に明かすことはなく、微笑みながらのりくらりと躲けていく。それが記憶を失った彼にできる、唯一の自己の確立なのだから。  
 一人称/二人称 私/貴方、君

実際に32歳なのか、はたまた記憶喪失ではなく「記憶を持たない20歳の肉体」だったのかは定かではない。自分を探す彼の目的は終わることを知らないようだ。